

# 躍動 *Aggressive!*

進路通信第2号

大型連休が明けました。連休中は天気に恵まれませんでしたでしたが、これからは日差しも十分で、植物のみどりがきれいです。花粉の飛散が終わり、寒さがぶり返すこともありません。蚊も小バエも飛ばず、台風も来ない。年間で最も快適な陽気と言える季節です(コロナさえなければ)。

1年生の皆さん、課題テストはいかがでしたか。「連休」といっても部活動によっては毎日のように練習や試合や大会があって、それなのに課題はたっぷりあって、とても「連休気分」ではなかった、という人もいるでしょうね。逆にだからこそ、高校生になったという実感が湧き、「充実してたぜ」という人も多いでしょう。へろへろになった人も、ポーとしているうちに終わってしまった人も、早速取り返すことから始めなければなりません。高校生は忙しいのです。

2年生の皆さんはわかっていましたよね、と言いたいところですが、去年はまだ休校中でしたから、経験値は1年生と変わらないかもしれませんね。でもやっぱり2年生は2年生です。

「大型連休のすごし方」はわかっていたはず。勉強に部活動に自主的な活動に忙しいながらも、気持ちには余裕をもって生活できたことと思います。気持ちの余裕がだらけた生活につながってしまった人、焦ってください。後悔してください。夏休みにはそうならないように教訓にしてください。来年はそれどころではないのですから。

3年生の皆さんには言うことはありません。今がどういう時期かわかっていますから。それぞれの進路に合わせて、それぞれが計画的に学習を進めたのです。最後の試合や大会があった人はきっと完全燃焼して後輩の賞賛を受けたことでしょう。加えて各自の進路目標に沿った自主的な活動もこなし、有意義な連休でしたね。頑張りすぎないように保護者の方から心配されませんでしたか。と、ここまで読んで大きく頷いている人は何の問題もありません。このまま突っ走ってください。逆に「うわ、やべえ」と思った人、すぐに目を覚ましなさい。焦ってはいけません、あなたに残された時間は限られています。特に休日の過ごし方で大きく差がつくのです。

## 《当面の進路行事（一部既報）》

- 5/13 (木) 1年生 スタサボレクチャー      3年生 進路講演会
- 15 (土) 3年生 全統記述模試
- 28 (金)、29 (土) 3年生 ベネッセ共通テスト模試
- 6/3 (木) 2年 マイナビ①
- 5 (土) 看護模試(希望者・自宅解答)
- 7 (月) ~ 1, 3年進路希望調査
- 10 (木) 1年生 シブラボ・わくわく調査      2年生 進路講演会
- 17 (木) ~ 前期中間考査

## 《雑感》

つけた覚えがないのに扇風機が回っている。おかしいなと思ってよく見ると、換気のために開けた窓から吹き込んだ風が扇風機の背後に当たって、それで羽が回転しているとわかった。進路室は3階にあって眺めがよく、風も通るので(けれど冬はとても寒いし、夏が涼しいわけ

でもない)こんなことが起きたのだ(と書いているうちに風が収まった)。

「逆回転」といえば、18年ほど前、修学旅行で訪れた沖縄でこんなことがあった。

その年は例年と比べて遅い時期に台風が発生した。沖縄での修学旅行も3日目まではよかったが、徐々に影響を受けはじめ、3日目の午後からは台風の直撃を受けることになった。このあとはホテルで缶詰になるとわかったところで、ホテルの人がなぜかポータブルの冷風機と古いシーツを部屋に運んできた。エアコンは効いているのにどうということだろう、と思っていた。台風が来て謎は解けた。台風の強風で室外機が逆回転してエアコンが効かなくなったのだ。私は冷風機をつけた。停電しなかったのは幸いだと思った。次は窓のサッシの隙間から水が噴き出し始めた。私はあわててシーツで押さえ込んだ。外を見ると大根ぐらいの木切れが宙を舞って吹っ飛んでいく。道路は無人。クルマも通らない。なるほど、これが沖縄の台風か。生徒は外出禁止。いや、すべての人が閉じこもって台風が行き過ぎるのをじっと待つしかない。「様子を見に行っけがをした」なんてことはここではありえない話であろう。帰る予定の飛行機は当然欠航。3泊の予定が4泊に延びた。5日目、台風が去って見事な青空の下、帰ろうと空港に行ったのだが、今度はその台風が本州を直撃していて着陸できない、ということで飛行機はまたも欠航。2延泊となり3泊4日の修学旅行は5泊6日となった。6日目に沖縄を出ることになったがセントレア行きの便がとれず、夕方羽田に降りて品川から新幹線で名古屋に戻り、そこからバスで帰ることになった。

遅くに上陸して長良川をあふれさせた台風23号、といえは覚えている保護者の方も多いただろうと思う。

たくさんの出来事がある、ここには書き切れない。ドラマの連続で印象的な旅だった。記憶も鮮明だ。とにかくそれ以来、私は修学旅行でなにがあっても驚かなくなった(と思う)。個人の旅行でもそれは同じ。何事につけ「経験値」は大きな意味を持つものだ。「コロナ禍の経験」も将来「貴重な経験だった」と言えるかもしれない。

ところで沖縄では「台風は来ると困るが、来ないともっと困る」と言われる。島だから水不足の恐れが常にあるからだ。沖縄ではどの家にもシーサーと貯水タンクがある。台風が来たら、淡々と準備をして黙ってすぎるのを待つ、というのが沖縄流だ。

#### 《おまけ》

大学入試史上最短問題とされているのは2006年の京都大学後期の数学の問題である。

「 $\tan 1^\circ$  は有理数か」というもの。

1999年の東京大学前期ではこんな問題が出された。

「一般角  $\theta$  に対して、 $\sin \theta$ 、 $\cos \theta$  の定義を述べよ。」「その定義にもとづき、一般角  $\alpha$ 、 $\beta$  に対して  $\sin(\alpha + \beta) = \sin \alpha \cos \beta + \cos \alpha \sin \beta$   $\cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$  を証明せよ」というもの。なんのことはない。加法定理の証明を求めている。

一方、名古屋大学では数学の問題に「公式集」がついている。これも有名な話。

これらの大学はいわゆる「公式の丸暗記」の力をそれほど求めていることがうかがえる。

その入試でどんな力を試し、どんな学生を求めているかがわかる問題。そんな入試問題ばかりではないが、入試問題に学校のプライドを感じることはよくあっておもしろい。到底解けない問題が出ることもあるから恐ろしい。

「1998年 東京大学 後期 理系数学 第3問」は大学入試史上 No.1 の超難問といわれているから、興味ある人はチャレンジしてみてもいいか？